

平成27年度 総務委員会行政視察報告書

総務委員会委員長 後藤光秀

視察日：平成27年10月14日（水）～15日（木）

視察都市及び視察項目

1. 佐賀県佐賀市：シティプロモーションについて
2. 佐賀県武雄市：図書館の指定管理について

1日目 佐賀県佐賀市

佐賀県佐賀市では知名度アップを目的として、WEB用ムービー「W・R・S・B」を制作し、同時に特設サイトを開設しており、これまでにない斬新な切り口で佐賀市をPRしている。認知向上と観光誘致として、佐賀市の魅力のひとつである有明海と、そこに生息するめずらしい生き物「ワラスボ」をテーマとしたインパクトあるショートムービーを制作し、YouTube や SNS、WEB サイト等インターネットツールを活用して、国内外の多くの方に佐賀市の魅力やブランド力を情報発信させる CM 宣伝として楽しめるものとなっている。

また、担当部署の体制は、元出版社勤務、元広告代理店勤務の専門的な民間経験者を採用し、専門的且つプロフェッショナルの目線で遂行できるシティプロモーション室が平成26年4月より新設された。

シティプロモーション室が新設されてから、WEB や SNS 等の情報発信ツールとしての特徴からも約一年間で多くの実績（作品）を残し、マスコミからの話題性、評価にも繋がっている。何より驚いたのは、このようなネットによる情報発信が話題を受け、新聞やテレビなどからも取り上げられており、代表する一つのショートムービーでも広告換算費にして5,000万円以上もの相乗効果を発揮している。説明を聞きながらも、話題性という面で龍ケ崎市ではコロケや牛久沼、まいりゅう等の“ご当地なら”ではと可能性も考えさせられた。

地域のイメージを連想させるムービーや、話題性を重視したユーモアな作品も含めて、制作費も低予算で可能な取り組みであると同時に、市や地域ブランドの魅力や認知向上としてもとても興味深く、更なるまちの活性化や認知度アップに向けても、常に時代に合った情報発信のあり方を学ぶことができた。

龍ケ崎市でも新しく何かできないかと、当市のシティプロモーションについて改めて国内外、全国的にも発信できる斬新な仕掛けづくりを推進して参りたい。

2日目 佐賀県武雄市

佐賀県武雄市は人口約5万人、世帯数約16,600と龍ケ崎市よりも小規模都市である。武雄市には「市民のための図書館」として知られている“カフェ（スタバ）のある図書館”がある。

「もっと多くの方に利用してもらいたい」→“市民のための図書館”として、「行政でできなければ民間で」との考えから365日間、年中無休の“新図書館構想”を市長がイメージし、偶然に路上で出会った増田社長（蔦屋）に「武雄市の図書館をお願いします。」と、平例24年5月4日、基本合意締結に至ったものである。

実際に視察してみると、外には自然に囲まれた景観にテラス、テーブルやイスがあって、外でもゆっくりコーヒーを飲みながら読書のできるスペースが目につく。館内に入って来てまず気

になったのは、入り口にBGM(音楽)が流れており、お子様連れでも気軽に入れるように工夫されているようで、図書館に入ってすぐ右手にスターバックス(カフェ)ダイニングがあり、館内全体は木彫でアーチ型に20万冊の蔵書に囲まれたオシャレな空間となっている。また、雑誌販売、文房具などの購入もできる販売スペースもあり、TSUTAYA スペースでは映画はもちろん音楽も充実しており、電子端末(iPad)を活用した蔵書の検索サービスが設置され、近代的、且つ長時間滞在できる“新型図書館”といった印象に圧倒された。

行政と民間で、指定管理者として図書館の運営委託される武雄市図書館について、賛否も多くあったようだが、利用状況としては、リニューアル前の平成23年度の一日平均来館数が867人、リニューアル後の平成26年度は2,193名となっており、累計来館数でも313%の対比となっていることから、今回視察した武雄市の“新図書館構想”は成功事例として魅力的なビジネスモデルを学ぶことができたと考える。

『図書館』というこれまであった概念の中、斬新な発想から“図書館とカフェ”というサービスの導入は「市民サービス」のイメージとしても分かりやすく魅力的なものであると同時に、当市(龍ヶ崎市)においては、図書館をはじめとする文化会館、歴史民俗資料館など文化施設全体エリアの視点としても、これから未来的に更なる市民サービスの発展と実現に繋げることができるよう参考にして参りたい。